

20数年の薬と絶縁

妻と共に健康の日々

斎藤 悠輔

[illegible]

御生主といわれておりますが、
神代卷の診察を受けました。こ
う心臓には何等異常なく、ま
だ、他の方も心配するとはな
らぬでしょう。氣持を安らかに持
て、毎日の生活を送れば自然に
良くなりますよ」との言葉に安
んじました。

頭痛、イライラ消え

利他愛のお気づけ頂く

利他愛のお気づけ頂く

かたのが二軒、お話しを聞いて下さっている最中、横から邪魔が入つたが二軒と、結局駄目でした。それで沈む気持ちにけいけいに沈み、これではいけないと御神書を読まされたいただきますと、不思議にもペーじを讀んで、私が自己愛と利他愛の項でした。そう言えば、お話を聞かせていただきました。思

が、もう一度聞いて見ると、三

このもう一度と云ふのは、三

年位前と聞いてますが、有る御節に

おすがりして、半年位経つて見まし

たが全然覚えて聞われませんでした

。このうなことがありました

のもう一度と申し上げました矢

しほるような

四月の感謝祭の席上、会長先生

ことがはつきり判りました。このことを一週間待てるうちに面を止めて一か月以上経過しておりまゝは向の支障も有りませぬ。以前は一日要がなといふとなくとなく悪くなるような気がしたものです。極めて御浄霊のお加護と感謝致して頂きます。

お浄霊の手に顔

30年目、祖霊殿へお祀り
で救われた叔父

おかげ話

「さう、何時もいたならぬ私を、下ささいまで本当に好んでます。」
度不忠實な婦人を満して辱めたとき、謝罪を、報うとした西条。

「二十九日、私等の夕暮のお茶會が、『國旗の日』といひ、また、國旗の取り次ぎをいたしました。國の方から申し渡され、今夜さんになつていました。露露さんの帽子を被り、頭を飾、九時の演劇を拵けた上着の男性で、私の顔を伺かうといひ、じつと私を想つてます。もちろん、いまは結婚したことも無い人でした。血引くことは、悪い種なことを言うのしょうか、悪いといふに、國旗の旗中に入れたが手を止め、父に『國旗軍中』に申し渡され、今夜さんける頭飾が少しも泊りません。『露露』の事を忘れかけているから頭飾がしたときと、家の西にも置かれて、四月に入りましと四月に入り頭飾は掛くなるのに、この心は重く、何かしらううイと、さる日がなくなり、子供は勿論主にも、そして主人の両面に、死ぬまのイヤウをぶつてけるようになりました。顔に主から死んで、

上野
の西
を
お
人々
と
俱と

[illegible]

の年、その船の船頭の前に乗り
りまへしやを買つて賣べたま
に御座るを、下船されたまま
外郎で舟と売られたとのこと
月には外国で渡られた、日本
へは借川石が二入ったので
帰国、その時路に悪先生の家も無
く、悪僧・悪徳の世の人では
無く、たゞ取り手が悪徳になつ
た、引取の一掃は悪徳さんが
自宅の船で祀られてゐる、そのこ
ろ、お花を求めて、一生懸命な
だと言つたを、今更斯く知
つて、とても重要な事な
それこそ、その体験の中で、もう
一つ、とても重要な事を
明主様と自分が出し、ました
自分の心が沈む時、不徳者
だ、と、この船の船をさせて
だ、と、この船、悪徳者の船
野間さんで、だ、と、この船
も家の舟で祀られてゐる、そのこ

10 数年歩行困難な足

兵江
勇次郎

一か月余で軽やかに

御教え通り、30年の薬毒溶ける

その動機は否定が長い道を脱けて歩くことができず、苦しんでおりましたと云ふ、近所の知人から「北花山の上田さんのお宅には神様を御奉斎されておられます。一度御参詣されてはいかがで

しなと足が離れて切断という事態になりかねないと言われ、正月早々ですが入院いたしました。結果的には何の効果もありませんでした。上げておきます。

お伝えさせて頂いたか、聞いて下さりまして、ありがとうございます。
明主様有難うございました。
(五月月報録で)

